



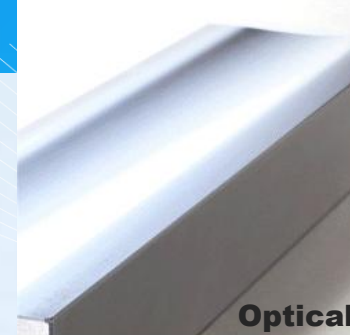
2026年6月期 通期

決算説明資料

2026年 8月10日

証券コード 3446

株式会社ジェイテックコーポレーション
<https://j-tec.co.jp>



Optical



Device Development



Life Science



ESCO, Ltd.

01 ビジネスセグメント

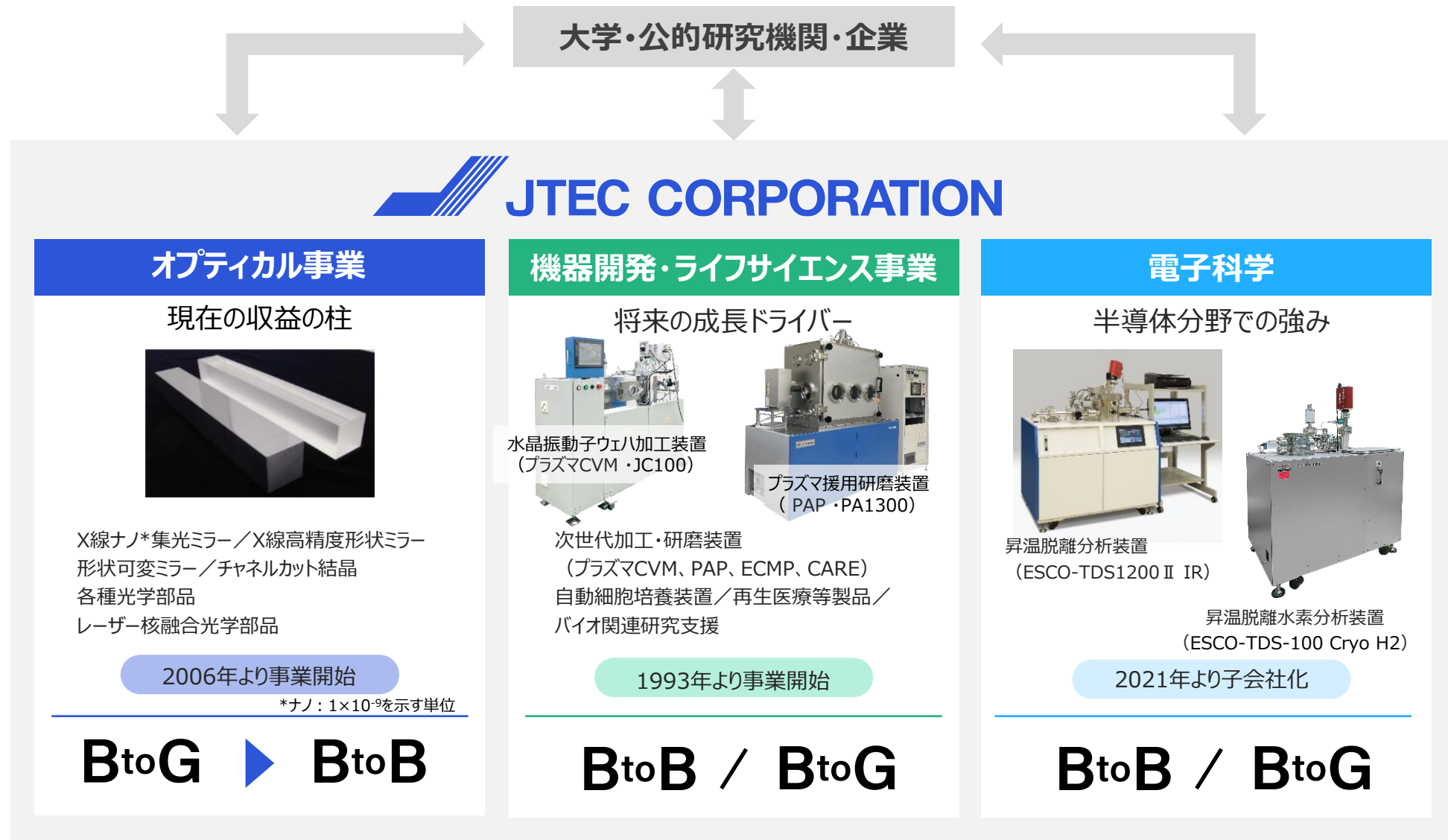
02 2026/6期 業績

03 2027/3期 業績見通し

INDEX

01

ビジネスセグメント



INDEX

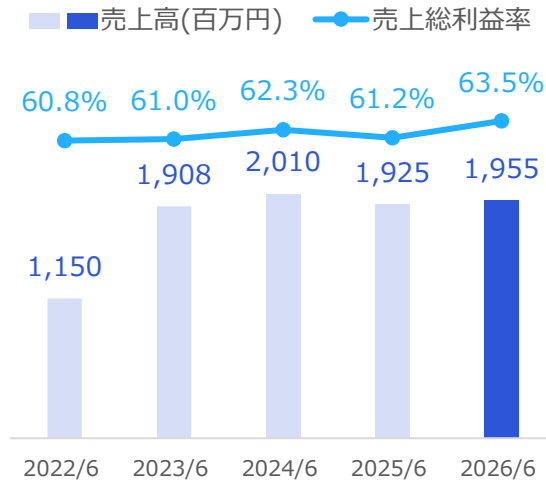
02

2026/ 6 期業績

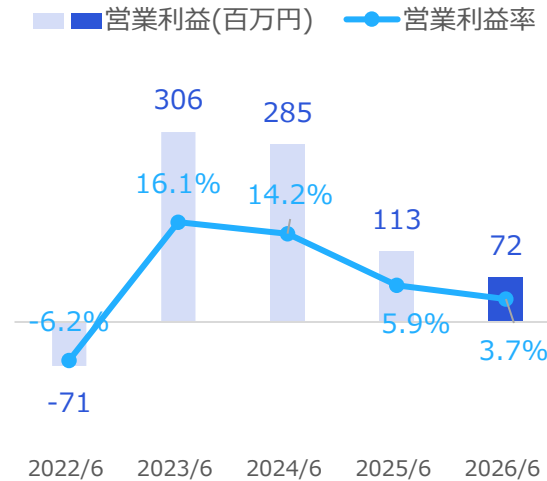
2026/6期決算（連結）：ハイライト

- 前年度比で増収減益
- 販管費増により営業利益率は前年度比2.2%悪化
- 当期純利益およびROEは前年度比ほぼ横ばい

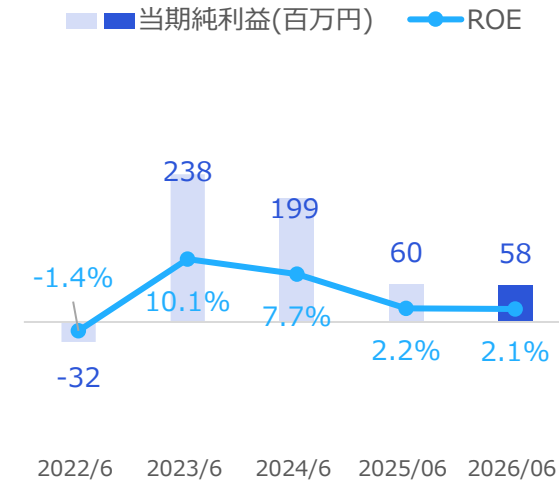
売上高と売上総利益率



営業利益と営業利益率



当期純利益



2026/6期 決算（連結）：損益状況

- 売上高は前年度比で1.6%の微増
- 売上総利益率が前年度比改善したものの、研究開発費およびシステム関係費の増加によって各種利益は前年度比ほぼ横ばい

（百万円）

	損益状況（累計）			
	2025/6期	2026/6期	前年度比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	1,925	1,955	30	1.6%
売上総利益	1,178	1,241	62	5.3%
売上総利益率	61.2%	63.5%	+2.3pts	
営業利益	113	72	-40	-36.0%
営業利益率	5.9%	3.7%	-2.2pts	
経常利益	102	84	-17	-17.3%
経常利益率	5.3%	4.3%	-1.0pts	
税引前利益	101	85	-15	-15.3%
当期純利益	60	58	-1	-2.8%
当期純利益率	3.1%	3.0%	-0.1pts	

2026/6期 決算（連結）：損益状況 事業セグメント別

(百万円)

		2025/6期 実績	2026/6期 実績	増減率
光学デバイス	売上高	1,234	1,426	15.6%
	セグメント利益	526	641	21.8%
	セグメント利益率	42.7%	45.0%	+2.3pt
機械開発	売上高	130	148	13.2%
	セグメント利益	-13	-73	-
	セグメント利益率	-10.1%	-49.3%	-39.2pt
ライフサイエンス	売上高	89	136	51.8%
	セグメント利益	-38	36	-
	セグメント利益率	-43.2%	26.7%	+70.0pt
電子科学	売上高	471	244	-48.0%
	セグメント利益	41	-68	-
	セグメント利益率	8.7%	-28.0%	-36.7pt
調整額	売上高	0	0	
	セグメント利益	-401	-463	
合計	売上高	1,925	1,955	1.6%
	営業利益	113	72	-36.0%
	営業利益率	5.9%	3.7%	-2.2pt

- オプティカルの売上高は前年度比15.6%の増加
- ライフサイエンス・機器開発は前年度比28.9%の増収

	2025/6期 実績	2026/6期 実績	前期比
機器開発 ライフサイエンス 売上高	220	284	28.9%

- 電子科学はサービスの売上が順調に推移したものの、受託測定と主力装置売上が振るわず前年度比48.0%の減収

2026/6期 決算（連結）：四半期ごとの業績推移

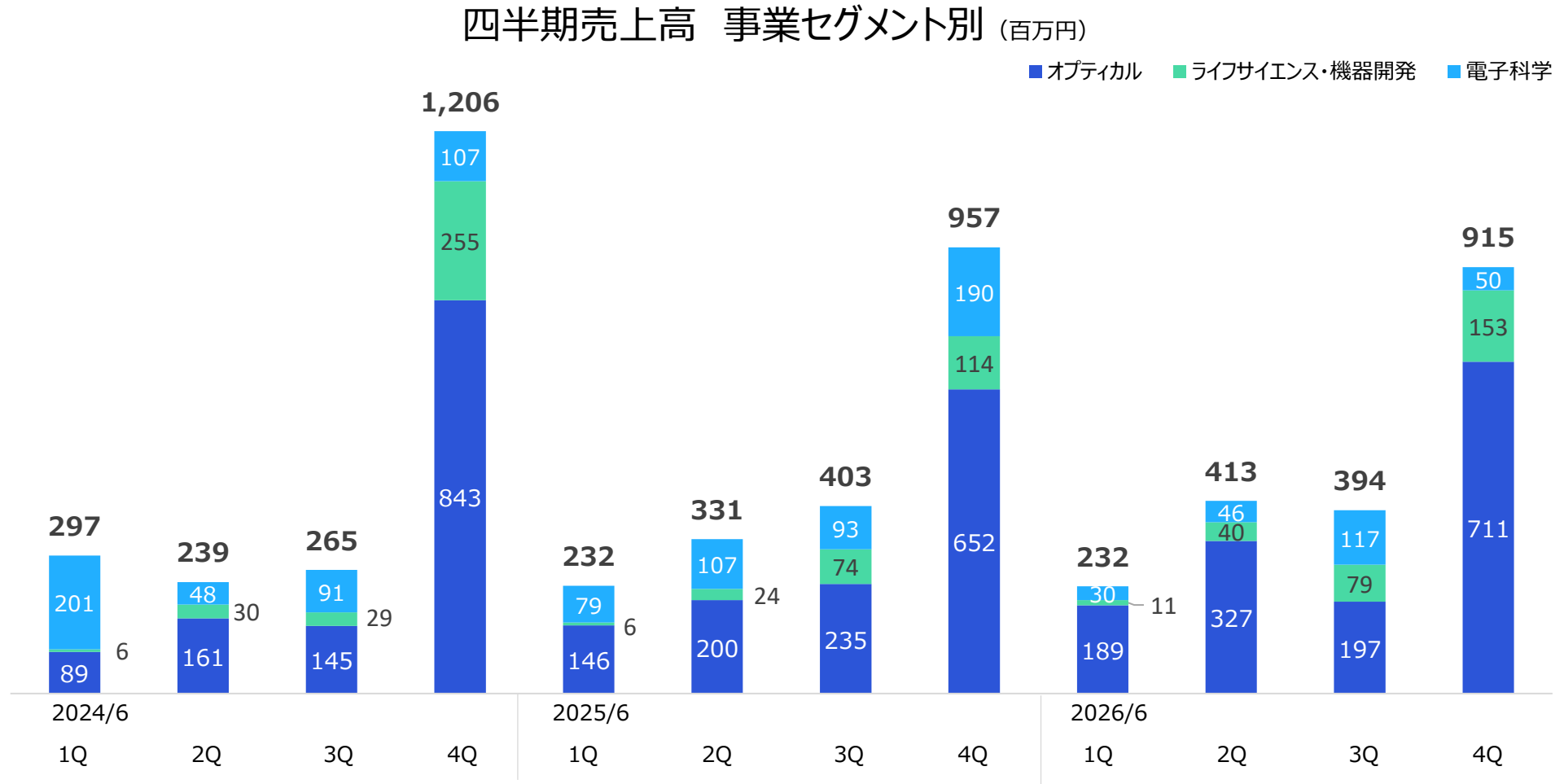
- 前年同様第4四半期に売り上げが集中
- 第4四半期会計期間は前年同期と同水準

(百万円)

	2025/6期				2026/6期							
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	3Q/4Q比		前4Q/4Q比	
									増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	232	331	403	957	232	413	394	915	520	132.1%	-42	-4.4%
売上総利益	153	172	247	604	149	244	247	599	352	142.3%	-4	-0.8%
売上総利益率	65.9%	52.1%	61.4%	63.1%	64.3%	59.1%	62.8%	65.5%	+2.8pts		+2.4pts	
営業利益	-132	-81	-28	356	-172	-21	-46	312	359	-	-43	-12.2%
営業利益率	-57.1%	-24.5%	-7.0%	37.2%	-74.0%	-5.1%	-11.8%	34.2%	+45.9pts		-3.0pts	
経常利益	-147	-81	-28	359	-168	-17	-45	316	362	-	-42	-11.8%
経常利益率	-63.3%	-24.4%	-7.2%	37.5%	-72.6%	-4.4%	-11.6%	34.6%	+46.2pts		-2.9pts	
税引前四半期利益	-147	-81	-29	359	-167	-17	-45	316	362	-	-42	-11.8%
四半期利益	-105	-62	-25	254	-120	-17	-38	235	273	-	-19	-7.5%
四半期利益率	-45.4%	-19.0%	-6.4%	26.6%	-51.9%	-4.3%	-9.7%	25.7%	+35.4pts		-0.9pts	

2026/6期決算（連結）：事業セグメント別

- オプティカルは前年同様、第4四半期に売り上げが集中
- ライフサイエンス・機器開発および電子科学も第3および第4四半期に売り上げが集中したものの目標未達

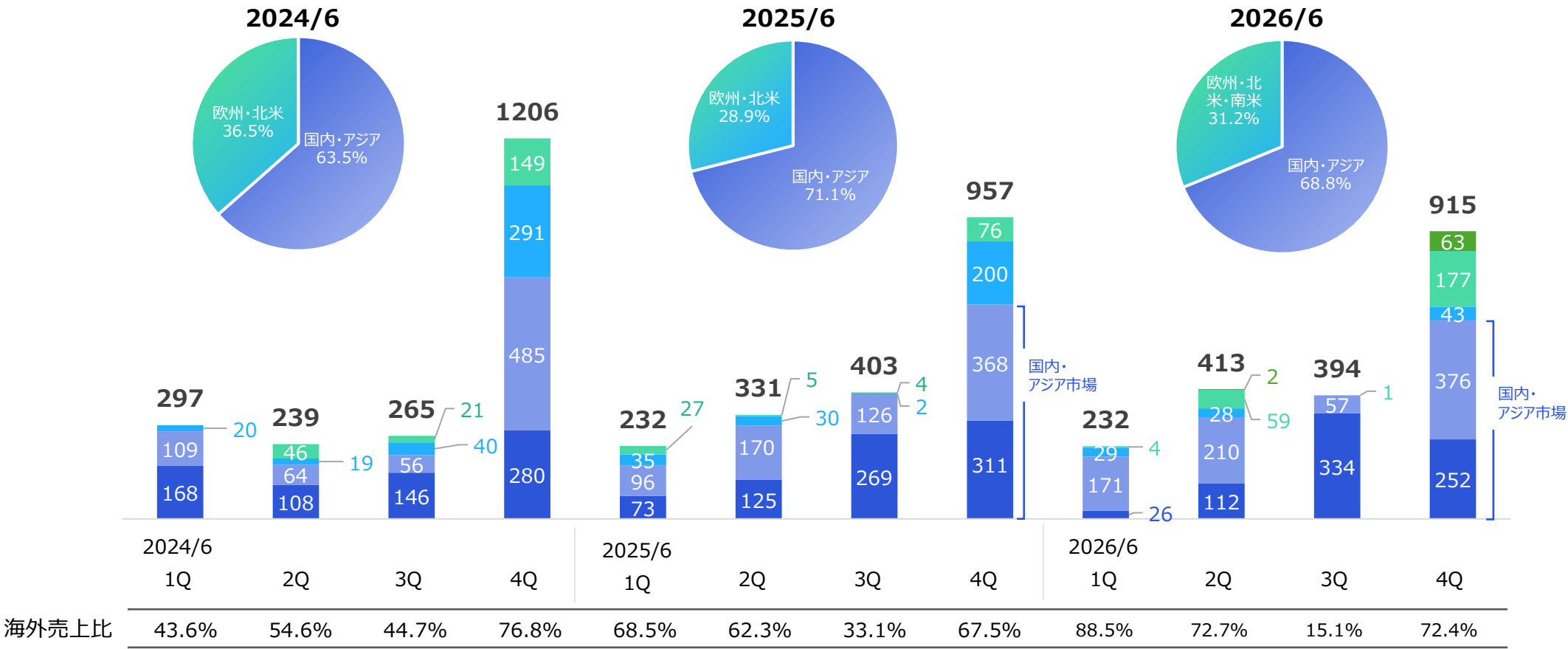


2026/ 6 期 決算（連結）：地域別

- 国内を含むアジア市場が前年と同様高水準を維持、今後も拡大を見込む

四半期売上高 地域（出荷先）別（百万円）

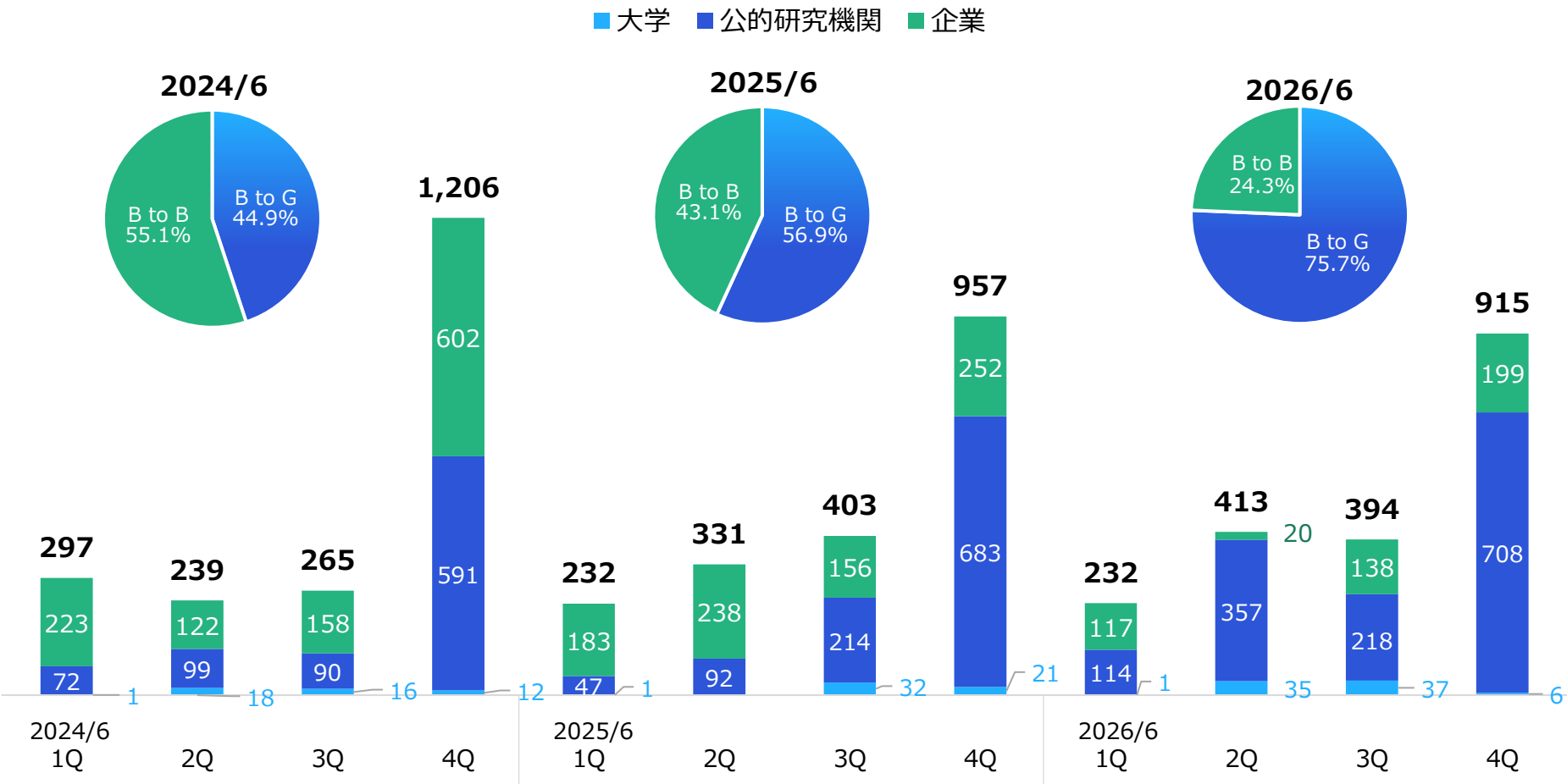
■ 国内 ■ アジア ■ 欧州 ■ 北米 ■ 南米



2026/ 6 期 決算（連結）：顧客属性別

- オプティカル事業が売上高の70%超を占めるためB to G（大学＋公的研究機関）がさらに拡大

四半期売上高 顧客属性別（百万円）

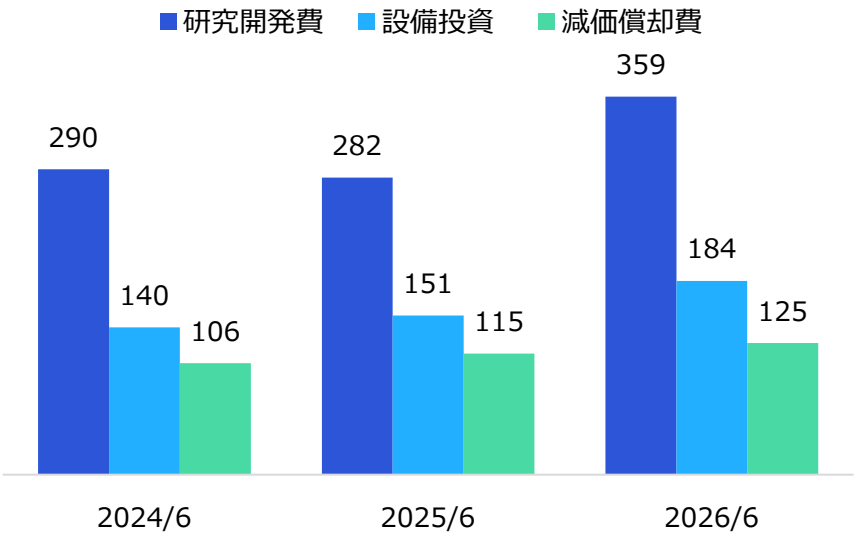


2026/6期 決算（連結）：投資・キャッシュフロー

- 新規事業関連中心に研究開発に注力、さらに生産性向上のための設備投資が増加
- 期末棚卸資産増加などに伴いFCFは低下

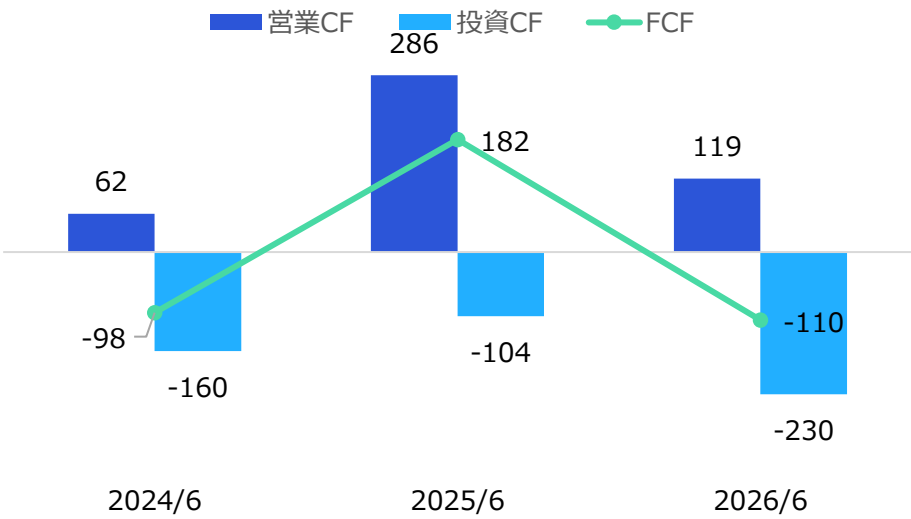
投資等 (百万円)

	2024/6期	2025/6期	2026/6期
研究開発費	290	282	359
売上高比率	14.4%	14.7%	18.4%
設備投資	140	151	184
減価償却費	106	115	125



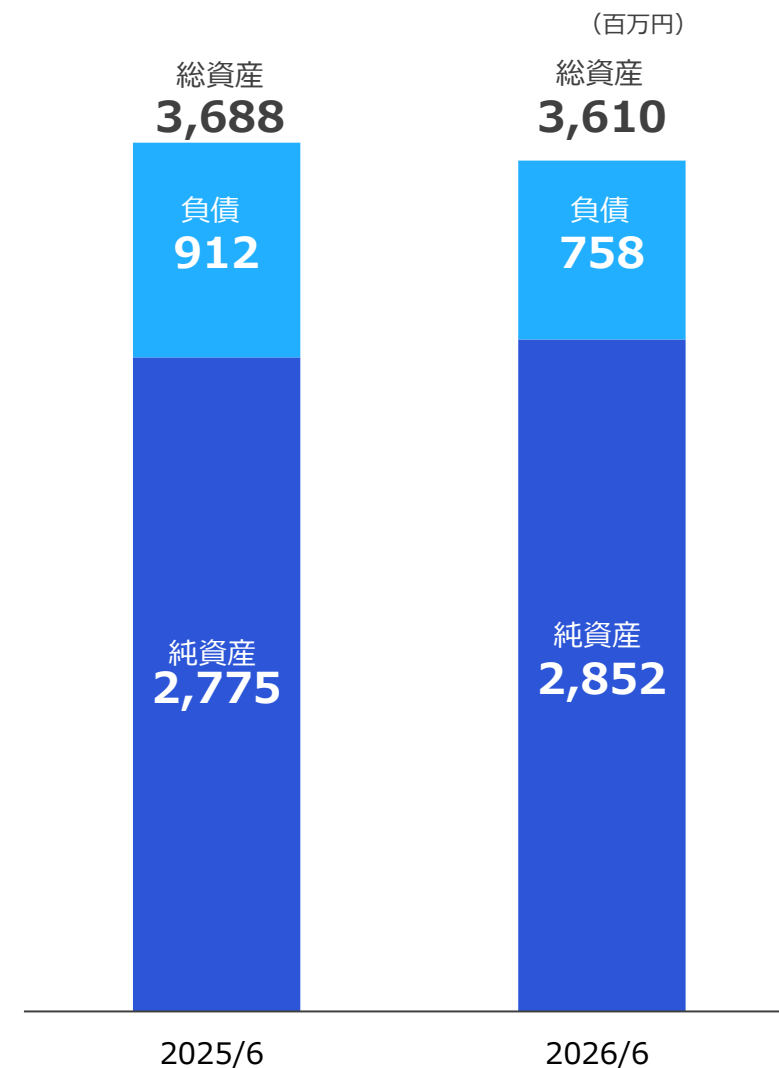
キャッシュフロー (百万円)

	2024/6期	2025/6期	2026/6期
営業CF	62	286	119
投資CF	-160	-104	-230
FCF	-98	182	-110



2026/6期 決算（連結）：財務の状況

		(百万円)				
		2025/6期		2026/6期		増減
資 産 の 部	流動資産	1,939	52.6%	1,782	49.4%	-157
	(現預金)	(712)	(19.3%)	(514)	(14.3%)	(-197)
	固定資産	1,748	47.4%	1,828	50.6%	79
	(有形固定資産)	(1,377)	(37.4%)	(1,437)	(39.8%)	(59)
	資産合計	3,688	100.0%	3,610	100.0%	-77
負 債 の 部	流動負債	493	13.4%	415	11.5%	-77
	固定負債	419	11.4%	342	9.5%	-77
	負債合計	912	24.7%	758	21.0%	-154
純 資 産 の 部	株主資本	2,775	75.3%	2,852	79.0%	76
	(資本金)	(847)	(23.0%)	(856)	(23.7%)	(9)
	(資本剰余金)	(807)	(21.9%)	(816)	(22.6%)	(9)
	(利益剰余金)	(1,121)	(30.4%)	(1,180)	(32.7%)	(58)
	純資産合計	2,775	75.3%	2,852	79.0%	76
負債純資産合計		3,688	100.0%	3,610	100.0%	-77



INDEX

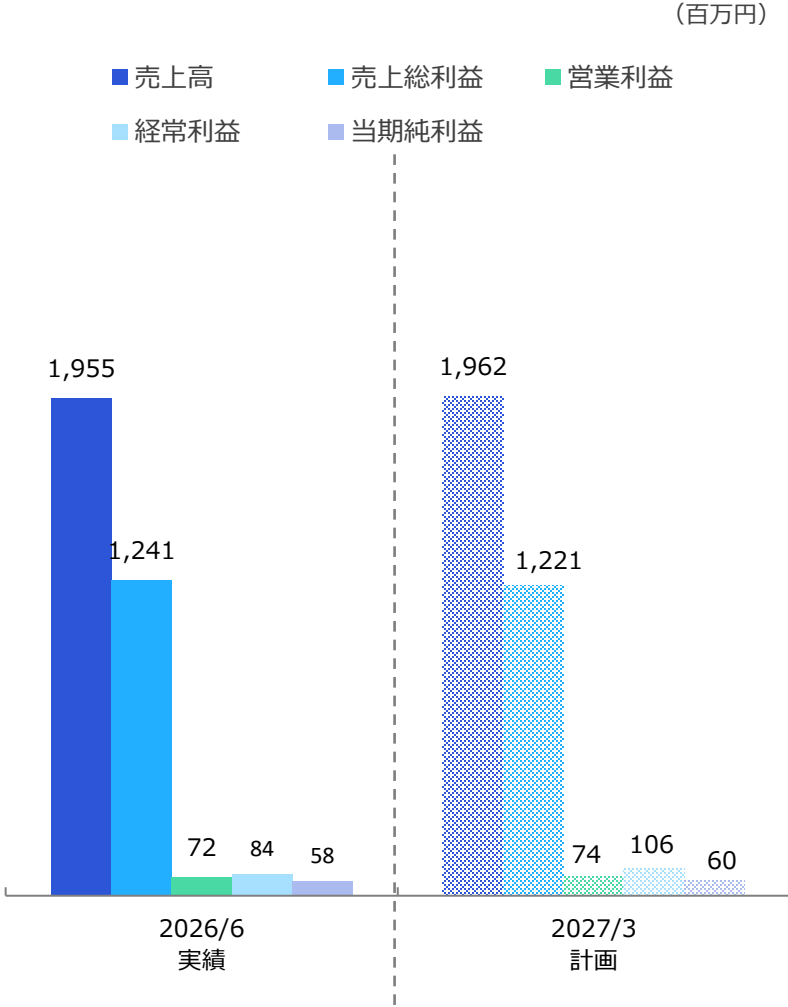
03

2027/3期 業績見通し

進行期において決算期を6月から3月へ変更予定

- 9か月決算ではあるものの、売上高は前年度比0.3%増、経常利益26.3%増を見込み、増収増益の見通し

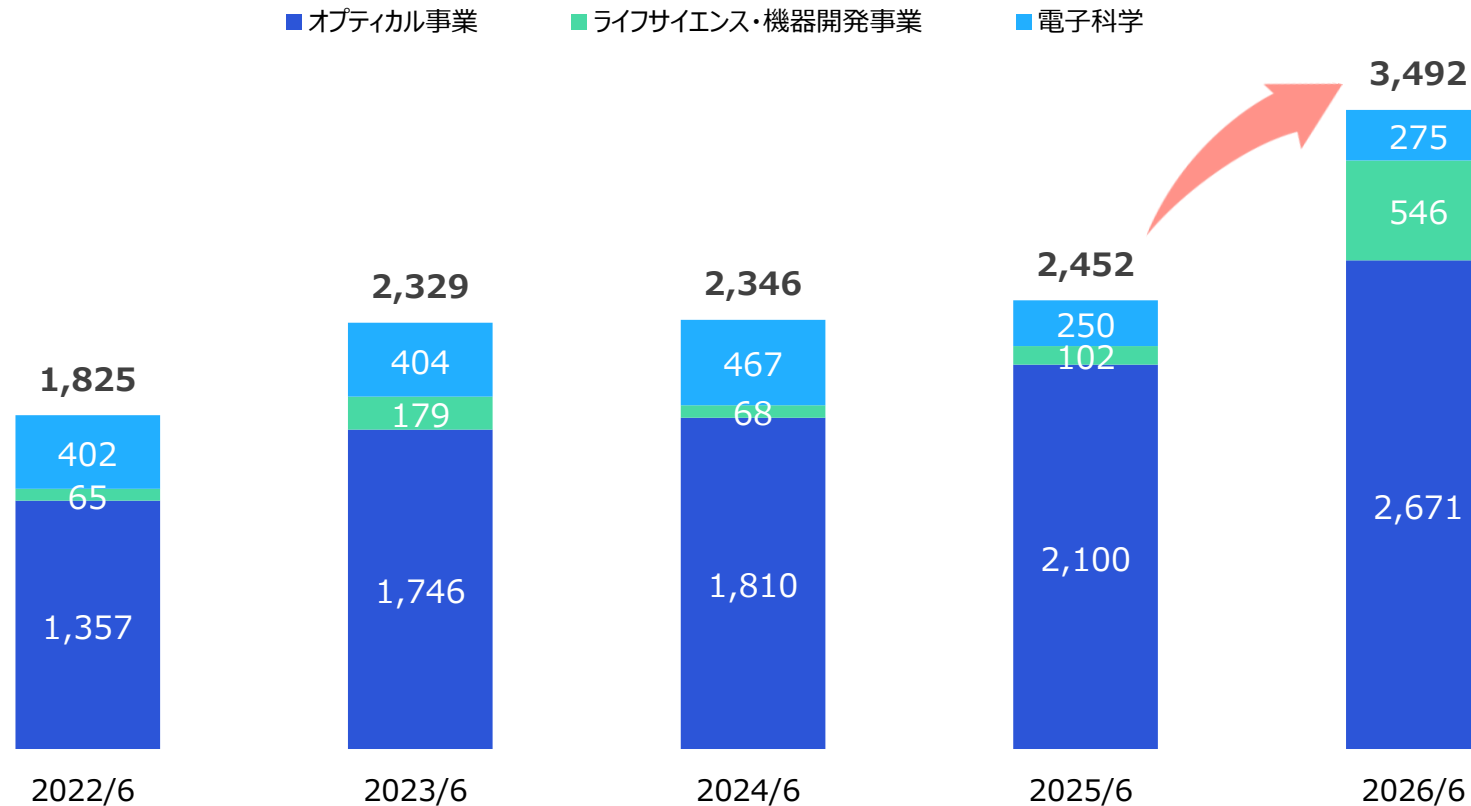
	(百万円)		
	2026/6期 実績	2027/3期 計画	前期比 (年換算比)
売上高	1,955	1,962	100.3% (133.8%)
売上総利益	1,241	1,221	98.4% (131.2%)
売上総利益率	63.5%	62.2%	
営業利益	72	74	102.6% (136.8%)
営業利益率	3.7%	3.8%	
経常利益	84	106	126.3% (168.4%)
経常利益率	4.3%	5.4%	
当期純利益	58	60	102.7% (137.0%)
当期純利益率	3.0%	3.1%	



2027/3期 業績（連結）見通し：前期末受注残高

- アジア市場の旺盛な受注を背景にオプティカルの受注残が積み上がり、来期以降の収益に大きく貢献
- 機器開発事業では水晶振動子ウェハ加工装置（プラズマCVM）の大型受注を獲得

受注残高の状況（百万円）



※受注確定分と受注確度の高い案件の合計

2027/3期 業績（連結）見通し：セグメント別見通しのサマリー、計画のポイント

(百万円)

		2026/6期 実績	2027/3期 計画	前期比 (年換算比)
オプティカル	売上高	1,426	1,110	77.1% (102.9%)
	セグメント 利益	641	386	60.3% (80.4%)
	セグメント 利益率	45.0%	35.1%	
機器開発	売上高	148	368	249.0% (322.0%)
	セグメント 利益	-73	0	—
	セグメント 利益率	-49.3%	—	
ライフ サイエンス	売上高	136	128	94.0% (125.4%)
	セグメント 利益	36	30	84.3% (112.4%)
	セグメント 利益率	26.7%	24.0%	
電子科学	売上高	244	365	149.1% (198.7%)
	セグメント 利益	-68	52	—
	セグメント 利益率	-28.0%	14.4%	
調整額	売上高	0	—	
	セグメント 利益	-463	-394	
合計	売上高	1,955	1,962	100.3% (133.8%)
	営業利益	72	74	102.6% (136.8%)
	営業利益率	3.7%	3.8%	

オプティカル事業

- 中国市場の受注が旺盛
- 日本・アジア・欧米にある複数の先端放射光施設がアップグレードを控え、引き合いが活況
- 半導体向け高精度光学部品の受注数増加

機器開発事業

- AI市場成長によるデータセンターや情報通信の需要の高まりや、次世代パワー半導体需要にけん引され、高性能高効率なデバイス/コンポーネントをターゲットとしたプラズマCVMおよびPAPの引合い受注が増加基調
- 各商品とも中国・台湾からの堅調な引合いに加え、ダイヤモンドウェハ加工をターゲットとするPAPはグローバル（欧米・インド・オーストラリア）な引き合いが活況、またPAPの前処理装置としてレーザー加工装置を開発、受注を獲得
- 研究開発用途に加え、本格的な生産用途需要の拡大に対応し、商品の更なる高付加価値化（高スループット化）と機能強化（高信頼性化）を推進中

ライフサイエンス事業

- 再生医療・創薬分野の人手不足を補完する「自動細胞培養装置」の市場拡大とその波及効果となる「大型細胞培養自動化システム」の積極的な市場展開
- 研究機関との共同研究により開発に成功した骨髓液幹細胞分離装置により分画した患者骨髓液由来幹細胞を用いた脳梗塞・認知症治療（自由診療）を強力に推進
- 独自の培養技術「CELLFLOAT®」で製造した弾性軟骨組織による顔面修復再生医療は、製品化を目指し、現在東京大学等と第Ⅰ/Ⅱa相の医師主導治験を推進中

電子科学

- 今期も継続して、高度な半導体デバイス、パッケージ封入デバイス、IGZO膜、各種ALD膜の開発に対応した、赤外線加熱型昇温脱離分析装置「ESCO-TDS1200Ⅱ IR」の販売、サービス、受託分析各事業の拡大に期待
- 今期からAI半導体向け高精度温度制御機能を装備した新製品「ESCO-TDS1200Ⅱ IR BGM」を、米国での半導体国際学会での発表を機に、米国市場向けに受託分析・販売を開始
- 更に、鋼中水素検出専用の「ESCO-TDS600 IR H2」の販売と受託分析を開始



ご清聴ありがとうございました



JTEC CORPORATION

<https://www.j-tec.co.jp>

免責事項

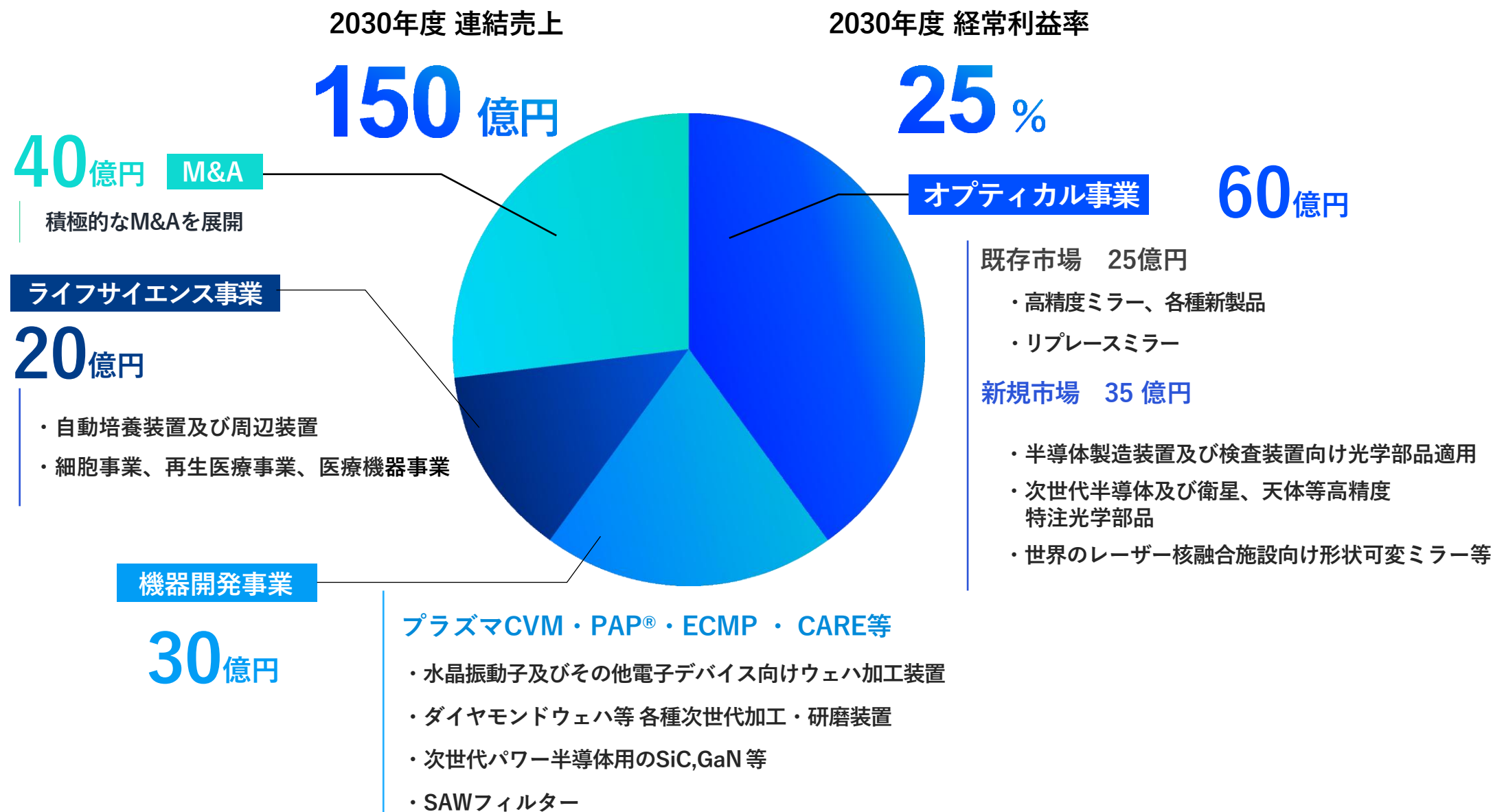
本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、内部・外部要因等により変動する可能性があります。当社は、本資料の情報の正確性、完全性及び実現性について、何ら表明及び保証するものではありません。

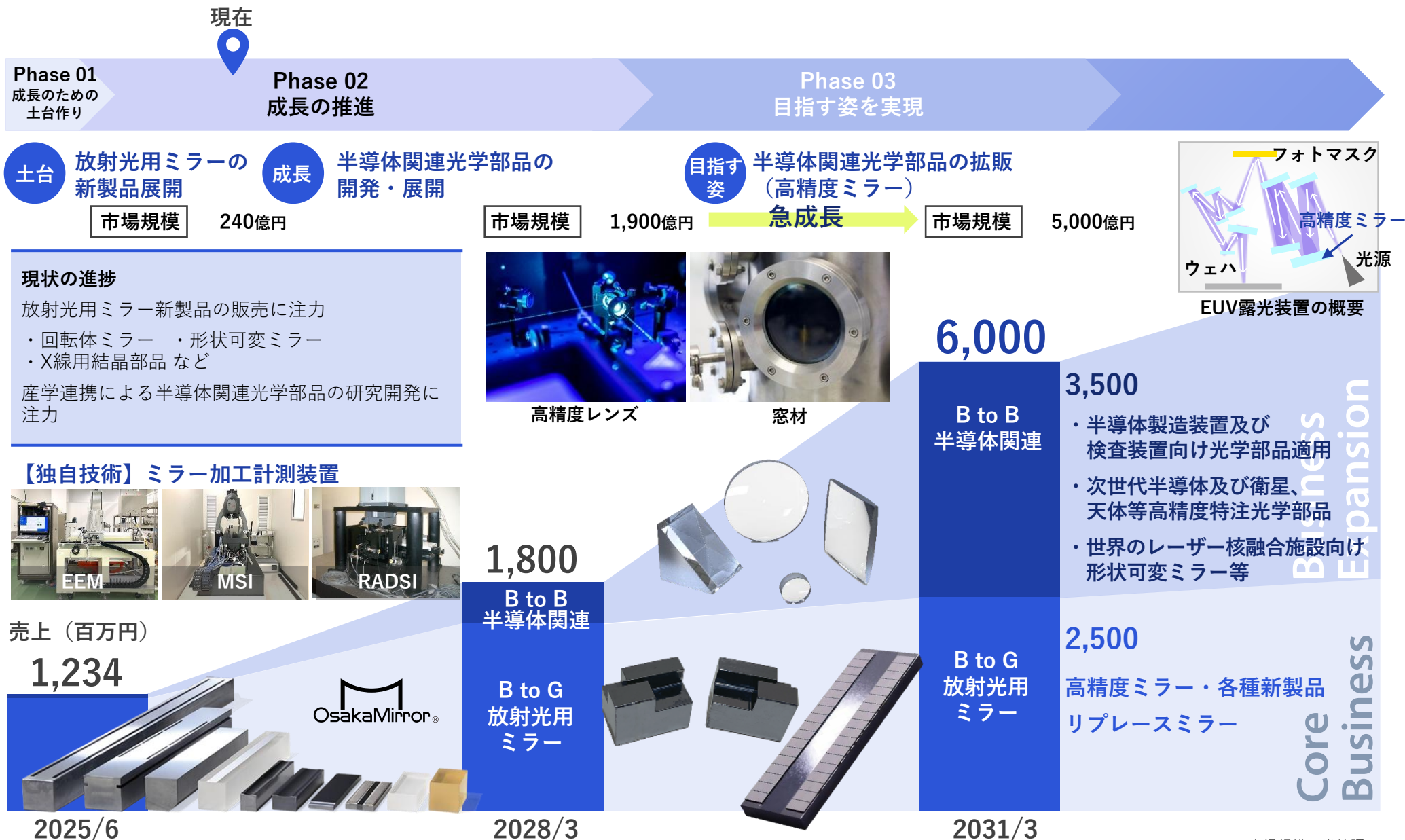


*Innovation*2030

の実現に向けて

長期成長戦略「Innovation2030」は、これまでのニッチトップ戦略で培った独自技術を、半導体分野のような大きな市場や、これから成長が見込まれる再生医療分野に適用・展開するための施策





独自の加工・研磨技術を半導体加工用装置市場へ

現在

Phase 01
成長のための
土台作り

Phase 02
成長の推進

Phase 03
目指す姿を実現

土台 プラズマCVM装置、
PAP®装置、ECMP装置の
早期売上形成

成長

半導体市場へタイムリーに参入
パワー半導体基板向け
各種研磨装置の販売

目指す姿

第二の事業の柱に成長
次世代半導体や化合物半導体ウェハ向けに、
加工・研磨装置が本格導入、大きく売上貢献

半導体研磨装置市場

大学発の独自の精密加工・研磨技術



実用化を推進し、早期市場導入を目指す

現状の進捗

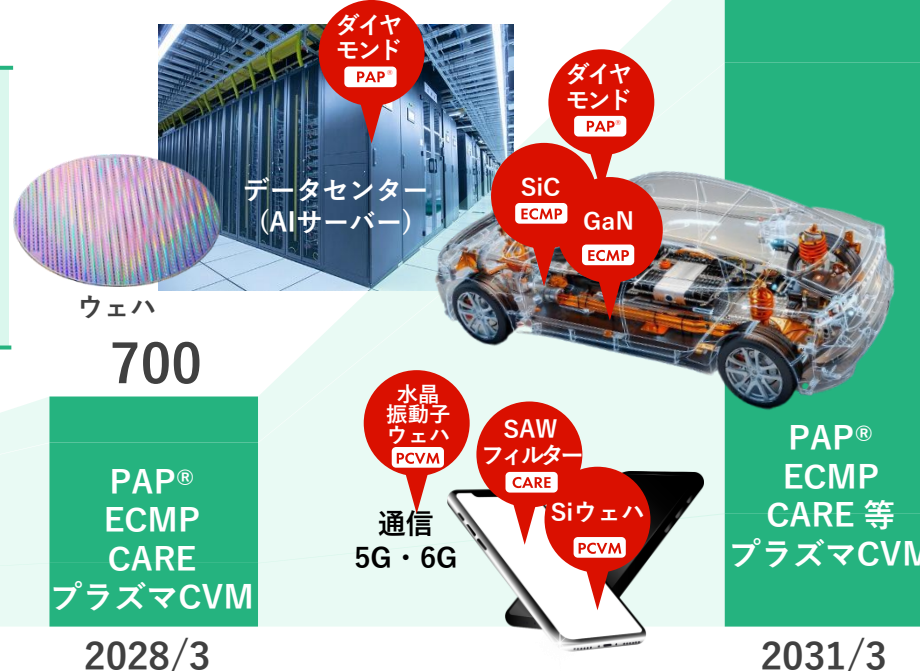
プラズマCVM：国内外で水晶振動子ウェハ加工装置として販売注力

PAP®：ダイヤモンドウェハ加工装置として開発研究機で複数納入、本格量産機の立上げ中

ECMP/CARE：半導体メーカー等からの試作評価が順調に進展

売上（百万円）

130
PAP®
プラズマCVM
2025/6



2024年 0.5兆円
EV, AI
5G・6Gの普及
年々拡大
2031年 2.3兆円

- ・水晶振動子及び
その他電子デバイス向け
ウェハ加工装置
- ・ダイヤモンドウェハ等
各種次世代加工・研磨装置
- ・次世代パワー半導体用の
SiC, GaN 等
- ・SAWフィルター

市場規模：当社調べ



土台 労働人口減少で注目を浴びている自動細胞培養装置の販売拡大

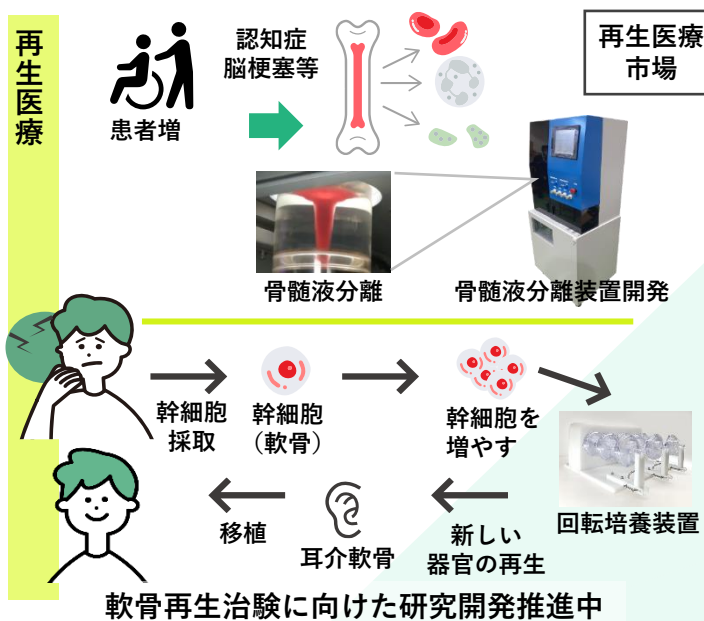
成長 MakCell Compact Automatic Cell Culture Apparatus

労働人口減少 → 自動細胞培養装置販売拡大

認知症・脳梗塞等治療に用いる骨髄液分離装置の開発、試験販売を推進

目指す姿 医療・高齢問題に対応し、再生医療等製品(軟骨など)製造のための独自の細胞培養装置や、医療機器としての骨髄液分離装置の市場展開が加速

現状の進捗
大手製薬会社を中心に引き合いがある自動細胞培養装置の営業活動に注力
認知症の自由診療で使用する骨髄液分離装置の導入に向け、病院とアライアンスを構築
弾性軟骨組織での再生医療に向けた研究開発を推進中



再生医療市場

2025年 3.8兆円 **拡大** 2030年 7.5兆円

医療現場 美容整形での実用化へ

2,000

細胞事業
再生医療事業
医療機器

移植用軟骨製造培養技術の供給
骨髄液分離装置

自動培養装置及び周辺装置

大型自動細胞培養装置
汎用型自動細胞培養装置

CellMeister

売上(百万円)

89

2025/6

大型自動細胞培養装置

300

自動培養装置及び周辺装置

2028/3

軟骨再生用培養装置

シナジー効果のある企業との相乗的な成長を目指す



Phase 01
成長のための
土台作り

Phase 02
成長の推進

Phase 03
目指す姿を実現

土台 電子科学㈱の新規開拓
市場で主力製品の
販売が増える

成長 積極的なM&Aを展開
当社とのシナジーが期待できる
複数の会社のM&Aを実施

目指す姿 当社と子会社の相補的な関係を構築し、
順次の売上拡大を実現する

現状の進捗

電子科学㈱の新規開拓市場となる中国・米国での販売に注力、及び当社との新製品共同開発

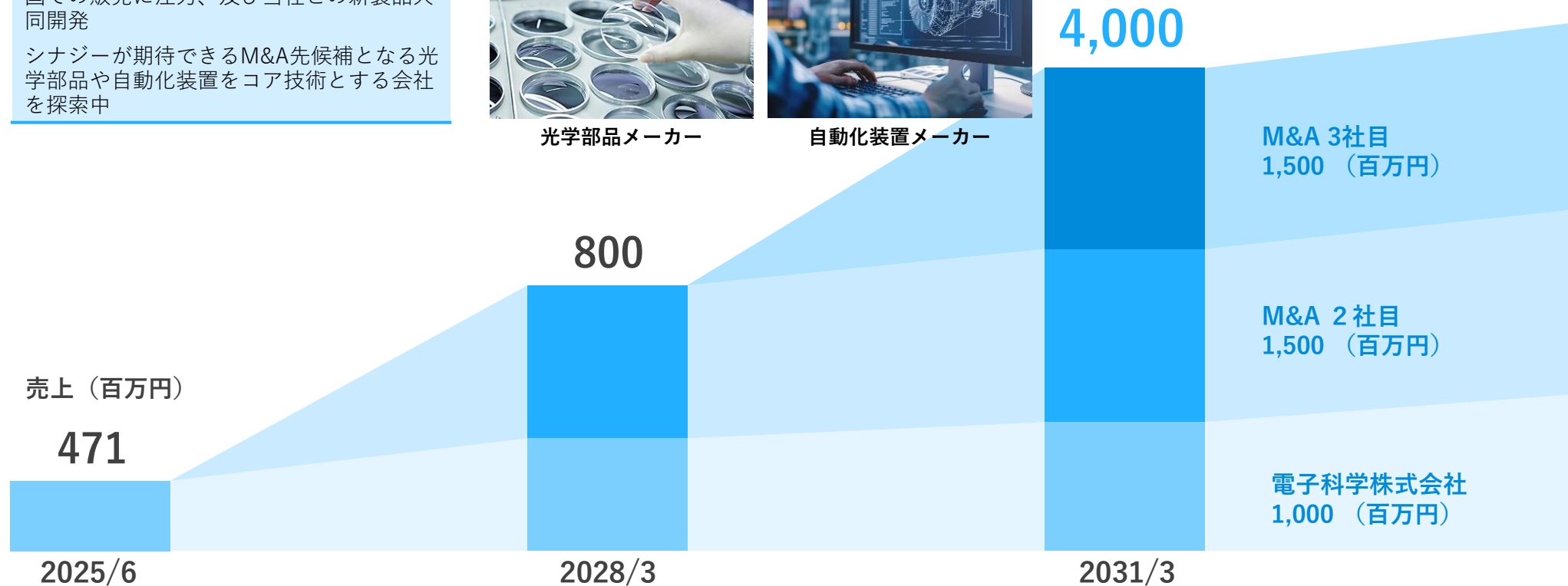
シナジーが期待できるM&A先候補となる光学部品や自動化装置をコア技術とする会社を探索中



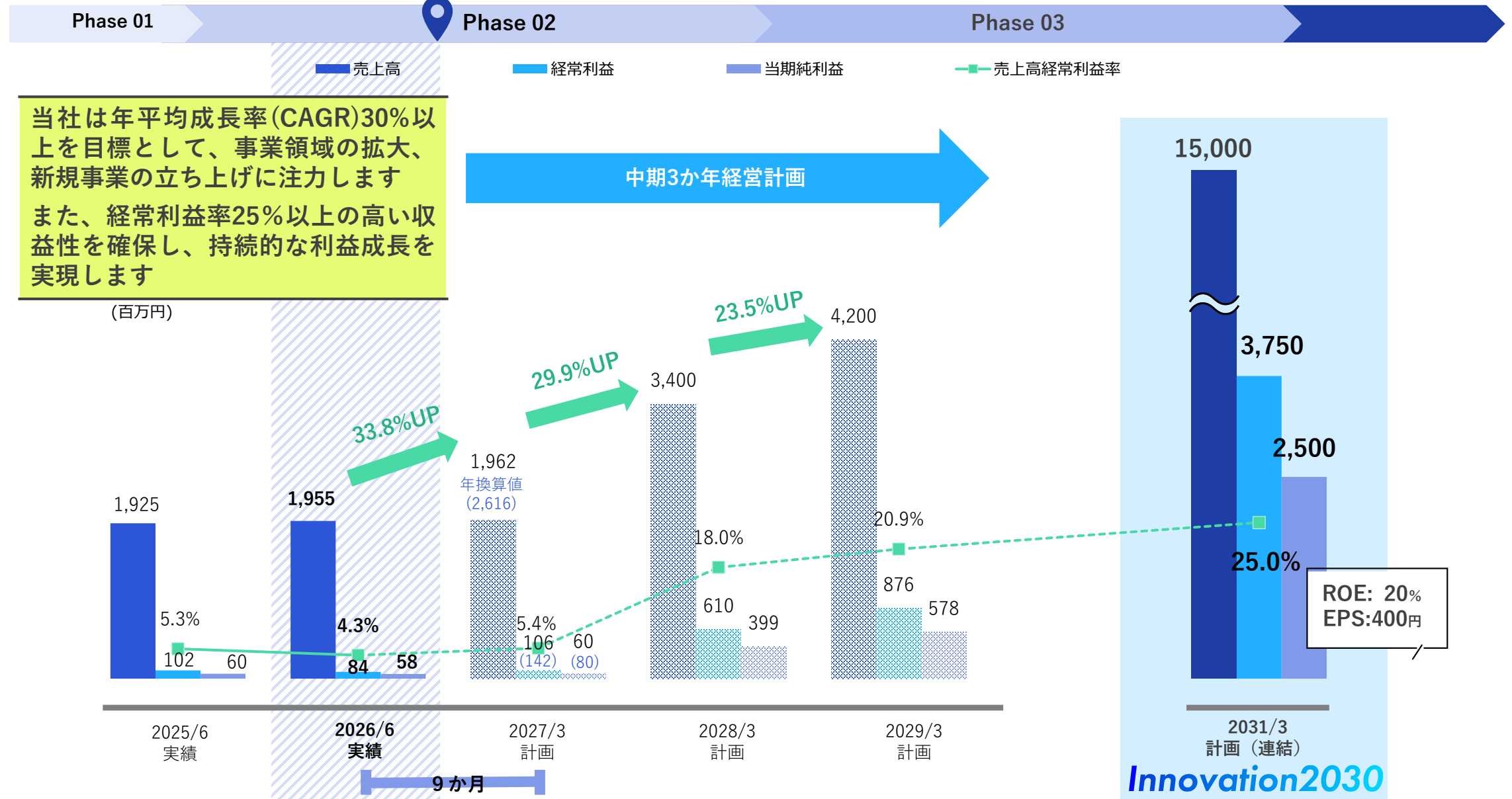
光学部品メーカー



自動化装置メーカー



Innovation2030 までのマイルストーン



※ROE:自己資本利益率、EPS:1株当たり利益

Appendix

INDEX
05-01

会社紹介

1993

大阪コンピュータ株式会社との
共同出資により、大阪府吹田市に
株式会社ジェイテックを設立

1993

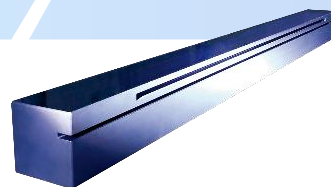


各種自動細胞培養装置の
事業開始

2004

本社を神戸市中央区へ移転

2003



放射光用高精度X線ミラーの
事業開始

2016

株式会社ジェイテックコーポレーション
に商号変更

2013

2016

大阪大学内に
細胞培養センターを開設



2018

東証マザーズ市場に新規上場

2019

新社屋（本社棟および加工・計測棟）
の完成



2020

東京証券取引所市場第一部へ
市場区分を変更



次世代加工・研磨システムの事業開始
（第一弾：水晶振動子ウェハ加工システム）

2022

東京証券取引所市場第一部から
プライム市場へ移行

2021

電子科学株式会社
を子会社化



2023

大阪大学と
共同研究部門を設立

2022

栃木生産技術センターを開設



2025

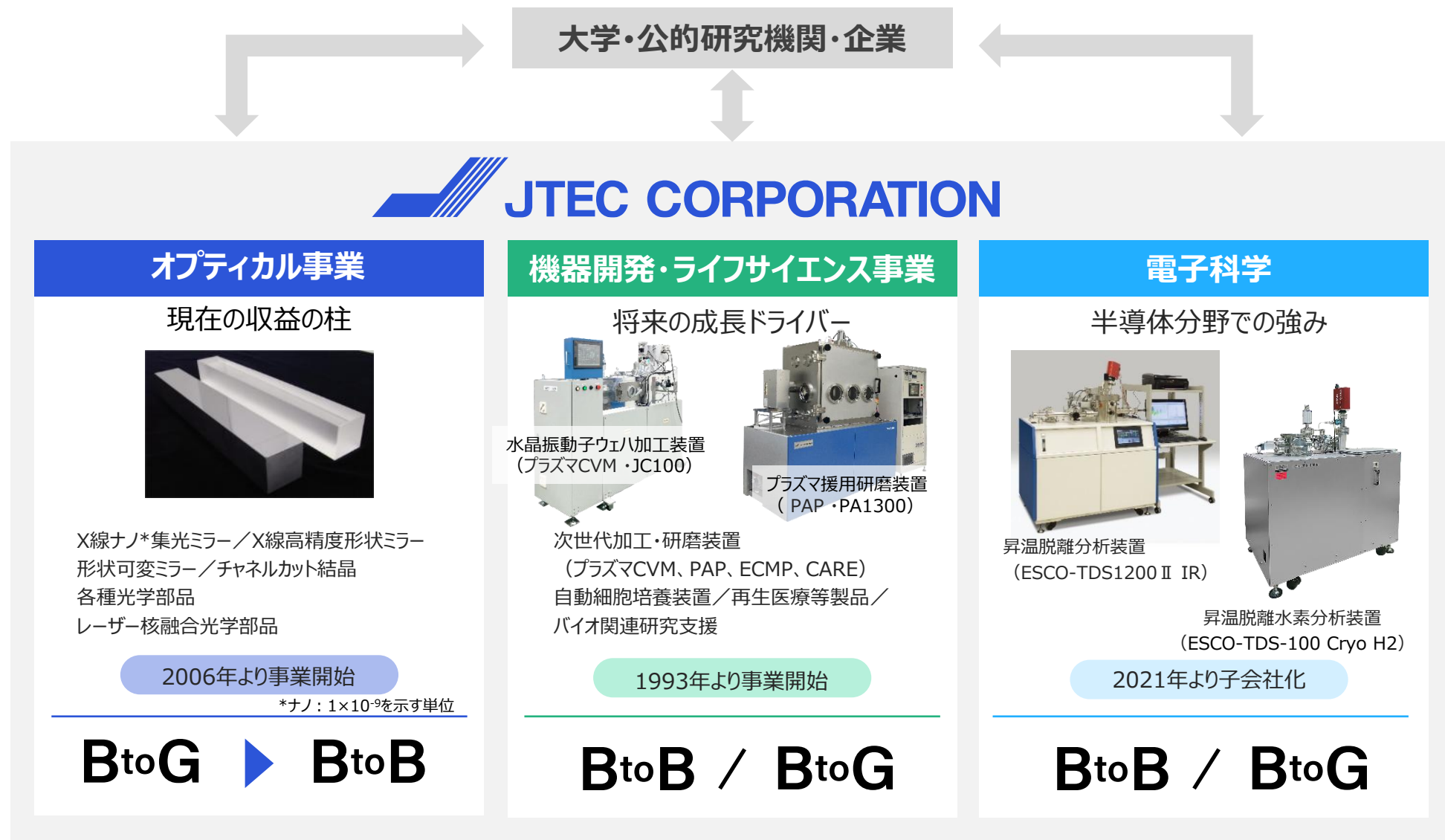
東京証券取引所スタンダード
市場へ市場区分を変更

2025

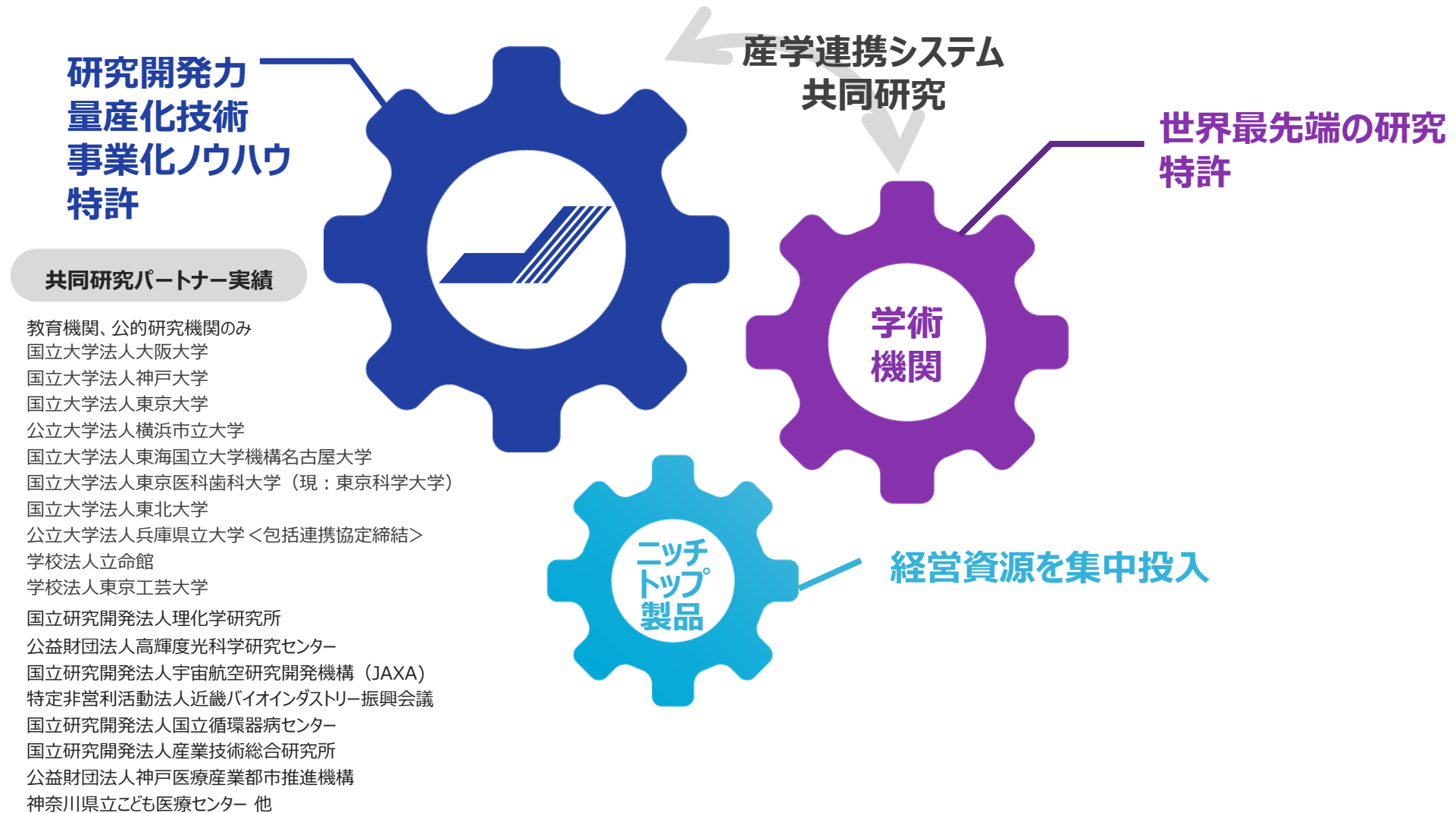
兵庫県立大学との
包括連携協定締結

EXPO2025
大阪ヘルスケアパビリオン出展





- 世界最先端となるニッチトップ製品の量産化、事業化で付加価値創出

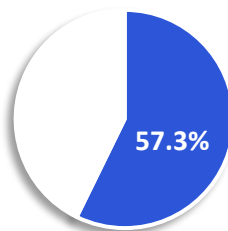


世界最先端技術を欲する顧客（企業、大学・研究機関）

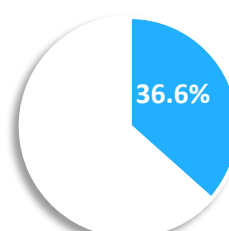
2018年度以降 4 年間の売上数量と当社の超精密加工・計測技術を適用したミラーの数量

売上全数量	521	(本)
当社の技術を適用したミラーの本数	521	
当社の技術を適用した高精度ミラーの本数	333	

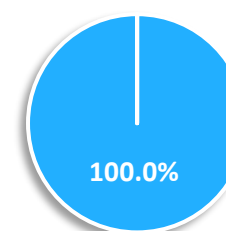
ジェイテックコーポレーションの
ミラー市場シェア



ミラー市場における
高精度ミラーの比率



ジェイテックコーポレーションの
高精度ミラー比率



ジェイテックコーポレーション市場調査結果

- ・ 当社が把握している稼働中の放射光施設が世界に約50ヶ所あり、ビームライン数は平均約20本。各ビームラインで使用するミラー本数は通常7本程度なので、使われるミラーの総本数を約7000本と見積る。通常4年間で13%程度が新設またはリプレイスされるため、4年間のそれら総必要本数は約910本と考えられる。
- ・ 高精度ミラーの総本数を333本と見積るのは、全世界の高精度ミラーの入札に参加している当社が全て落札していることを根拠としている。

高精度ミラーの定義

以下の4項目のいずれかを満たす

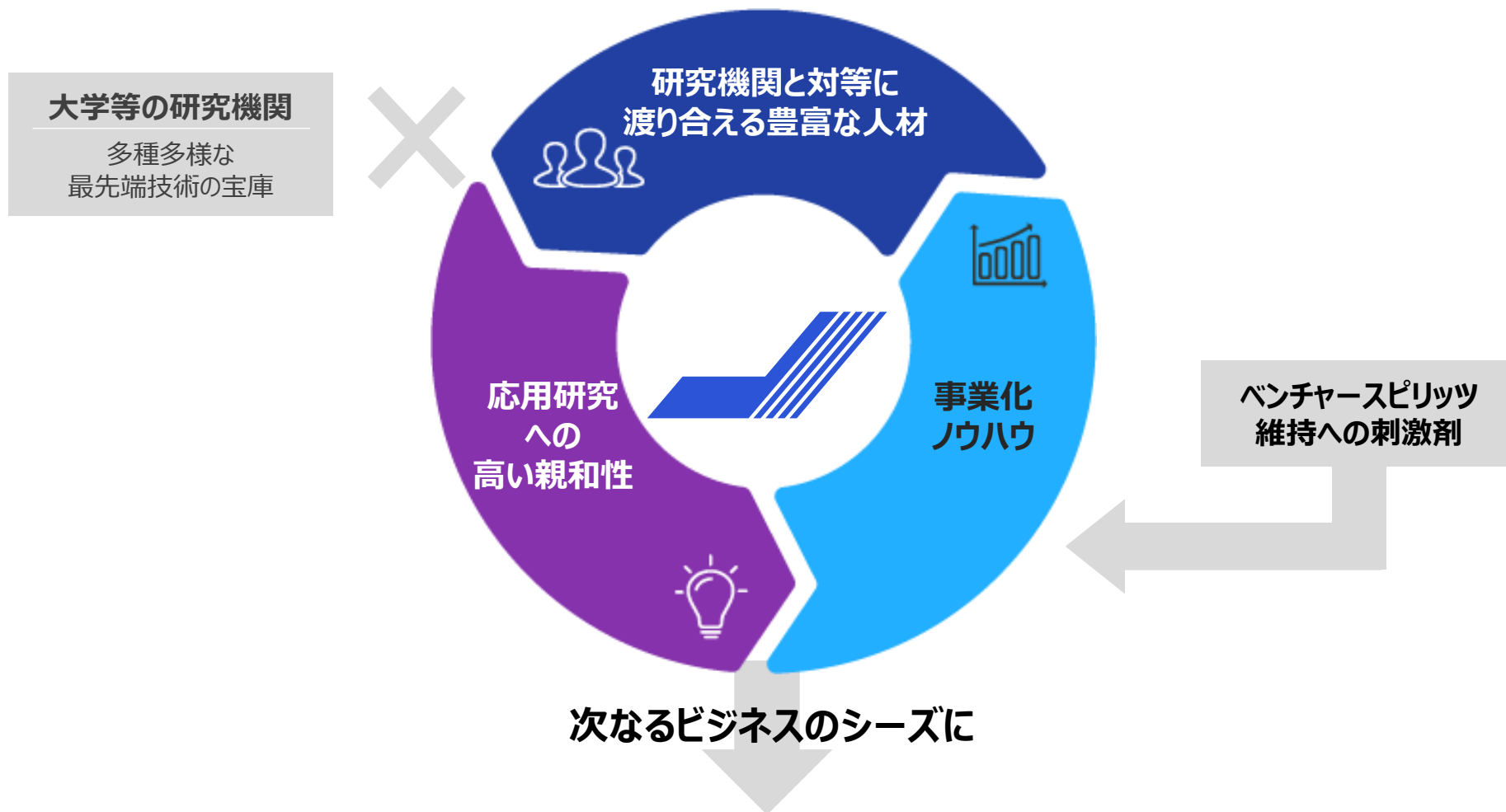
1. 表面精度の仕様として「傾斜角誤差0.15 $\mu\text{rad rms}$ ※1 以下または形状誤差10 nm PV※1 以下」
2. 表面粗さの仕様として「0.2 nm rms ※2 以下」
3. 外観の仕様として「傷の幅が10 μm 以下」
4. 表面性状の仕様として「加工変質層がなきこと」

※1 $\mu\text{rad rms}$ と nm PV はいずれも表面の凹凸の度合いを表す単位であり、前者は局所的な傾斜角の二乗平均を、後者は一番高いところと一番低いところの高低差を表す

※2 nm rms は表面微小領域における凹凸の度合い単位であり、高低差の二乗平均を表す

産学連携（強み）

- ビジネスアイデアと人材活性化に好影響
- アイデアを実用化できるビジネス感覚を活かし、新規事業へ展開



当社のビジネスは柔軟に変化

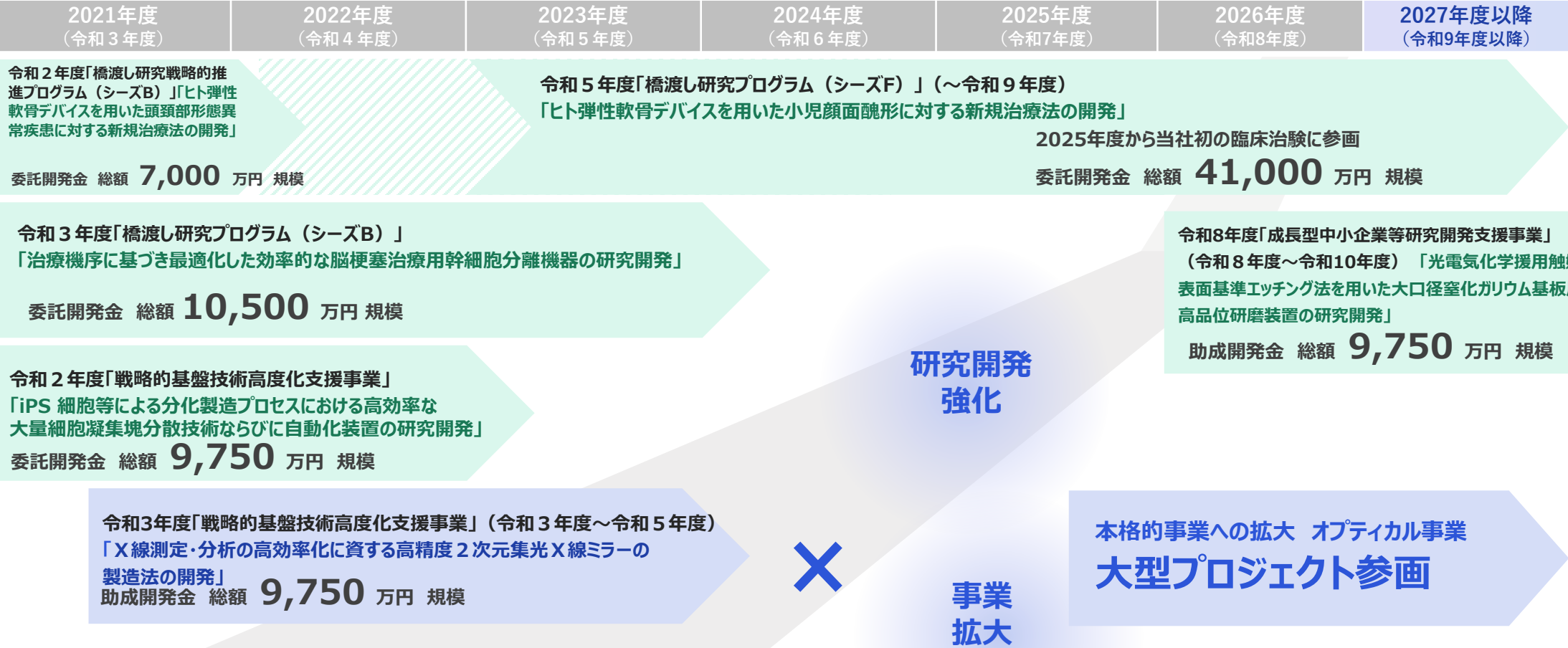
© 2026 JTEC CORPORATION All Rights Reserved.

競争的資金から大型プロジェクトへの展開

最近の受賞歴

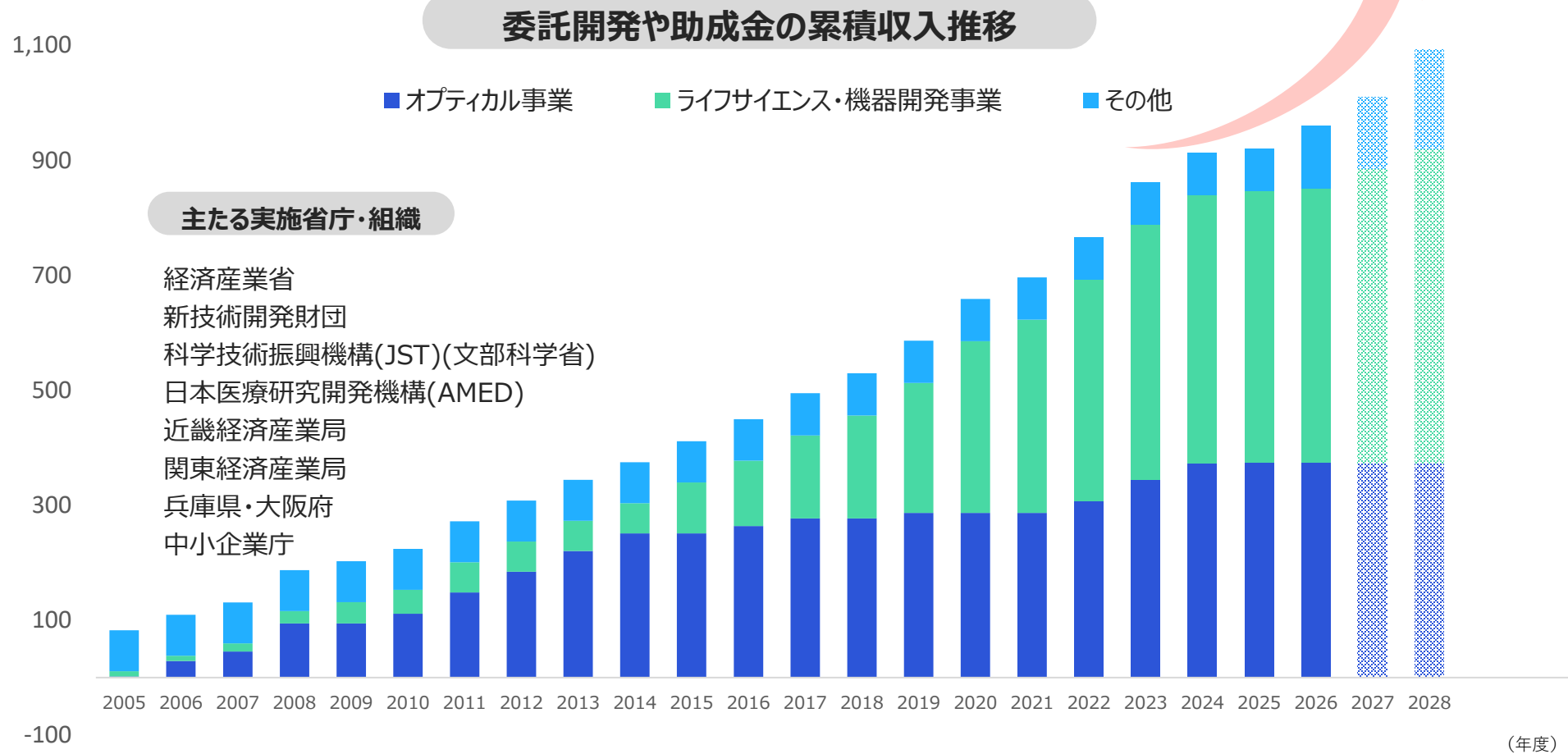
経済産業省「2020 年版グローバルニッチトップ企業100 選」に選定
経済産業省、近畿経済産業局「関西ものづくり新撰2021」に当社の継代培養技術「J-iSS」が選定
発明協会「令和 5 年度全国発明表彰」の未来創造発明奨励賞に「特許第5070370号」（ナノ集光X線ミラー作製のための超精密測定法の発明）が選定

競争的資金の採択状況



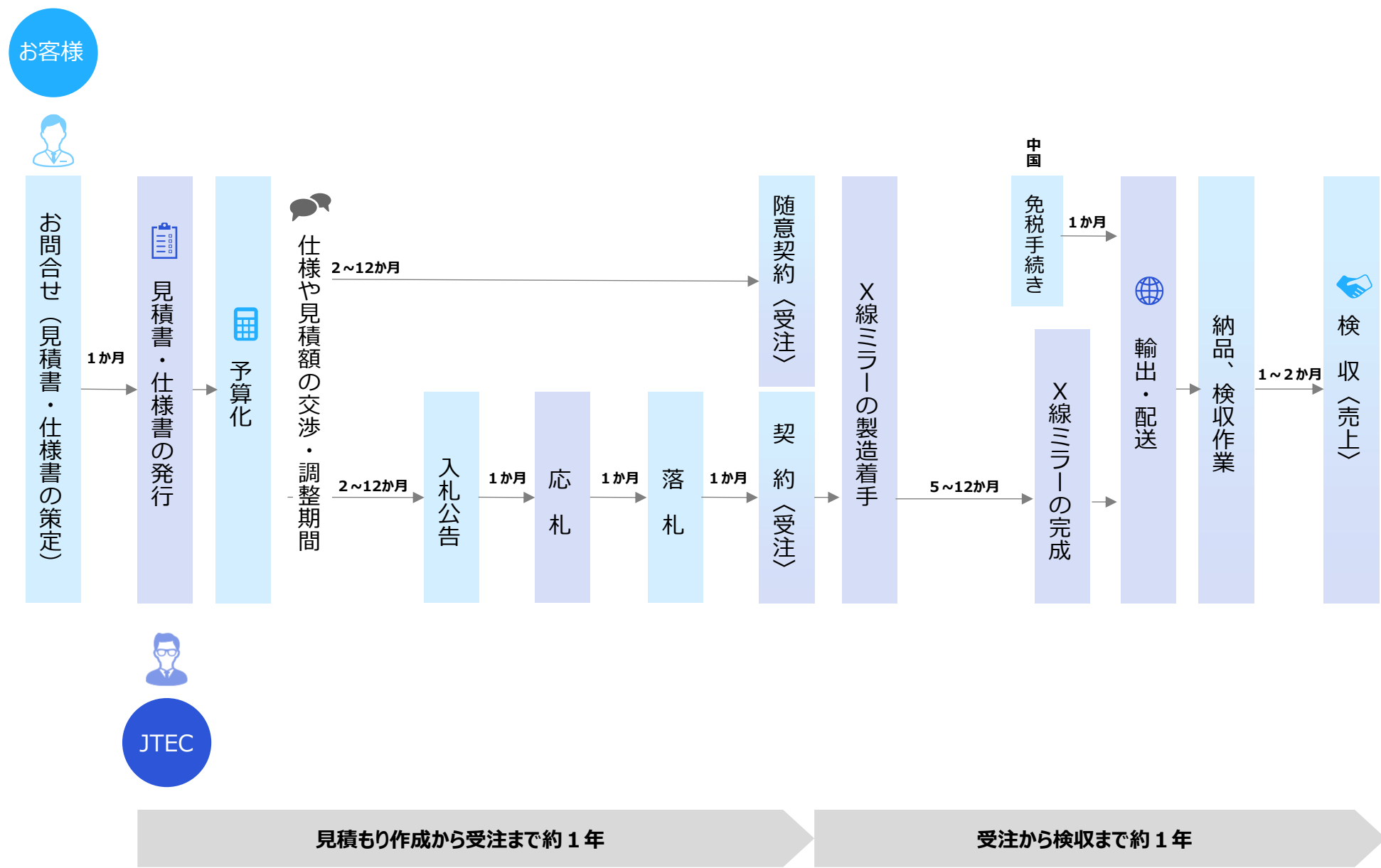
- 公的機関からの委託開発や助成金収入は累計で約 9 億円、評価主体は省庁、地方自治体、JST、AMED

(百万円)



プロジェクト規模全体では約20億円

X線ミラーの検収までの流れ(公的機関から受注した際の検収までのプロセス)



技 術 名	技術内容	事業化状況					
		研究開発	ユーザー テスト加工	プロセス・装置確定	小型装置販売	パイロットライン用 設備販売	生産ライン用 装置販売
プラズマCVM Plasma Chemical Vaporization Machining	技術の特徴： ・高密度のラジカルを利用した基材表面のエッチング加工 ・高効率で歪を生じない加工 ・厚み測定器と組み合わせたNC加工により、基板平坦性(TTV)向上 被加工物： Si及びSiO ₂ (水晶、ガラス)基板						
PAP® Plasma Assisted Polishing	技術の特徴： ・プラズマによる基材表面の活性化現象を利用した硬質材料の高速研磨加工 ・研磨剤、スラリーを用いないドライ＆クリーン加工 ECO 被加工物： ダイヤモンド(単結晶、多結晶)						
ECMP Electro-Chemical Mechanical Polishing	技術の特徴： ・基板表面の陽極酸化(軟質化)現象を利用した高速研磨加工 ・イオン伝導性パッドを用い、薬液(電解液)を使用しないクリーンな加工 ECO 被加工物： SiC ウェハ						
CARE CAtalyst Referred Etching	技術の特徴： ・触媒機能を持つパッドによる原子スケールでの平坦化加工 ・加工変質層、ダメージ層のない原子レベルで欠陥のない表面を創出 ・媒体は純水のみで、研磨剤等のメディアが不要でクリーンな加工 ECO 被加工物： Si、水晶、サファイア、GaN、SiC、LT/LN等種々の半導体基板						

会社概要

社名	株式会社ジェイテックコーポレーション / JTEC CORPORATION		
代表者	代表取締役社長 津村 尚史（つむら たかし）		
本社住所	大阪府茨木市彩都やまぶき2-5-38		
創業年月	1993年12月21日		
資本金	856,282千円（2026年6月末時点：連結）		
役員構成	代表取締役社長	津村 尚史	
	取締役 営業部長	金岡 政彦	
	取締役 管理部長	日谷 哲也	
	取締役	辻岡 正憲	
	社外取締役	川崎 望	
	社外取締役	松見 芳男	
	社外取締役	長谷川 功宏	
	常勤監査役	綾部 剛	
	社外監査役／公認会計士	梅田 浩章	
社外監査役／弁護士	片岡 牧		
			
			代表取締役社長 津村 尚史
事業内容	光学事業：放射光用高精度形状ミラーの設計・製作及び販売 ライフサイエンス・機器開発事業：医療/バイオ向け各種自動化システムの開発設計・製作及び販売		
売上高	1,955,936千円（2026年6月期：連結）		
従業員数	73名（2026年6月末時点：連結）		
拠点	当社	本社/開発センター：大阪府茨木市 細胞培養センター：大阪府吹田市（大阪大学内） 栃木生産技術センター：栃木県那須塩原市	
	子会社	電子科学株式会社：東京都武蔵野市	
総資産	3,610,675千円（2026年6月末時点：連結）		



本資料は、株式会社ジェイテックコーポレーションの業界動向及び事業内容について、株式会社ジェイテックコーポレーションによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。
既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性等の要因が、
将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。

株式会社ジェイテックコーポレーションの実際の将来における事業内容や業績等は、
本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、2026年8月10日現在において利用可能な情報に基づいて株式会社ジェイテックコーポレーションによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映したものではございません。